

仕事帰りや買い物帰りの 利用に便利

8 / 1

市立図書館『アーニス分館』がオープン

8月1日(金)、登別中央ショッピングセンター・アーニス2階で、市立図書館『アーニス分館』のオープニングセレモニー(市主催)を開催しました。同館は地域情報センターが図書館分館として生まれ変わったもので、商業施設内での公的図書館の運営は、道内初の試みです。

車いすや高齢の方も利用しやすいバリアフリーに対応した館内は、約7千冊の蔵書を有し、その中には、市民の要望を受けて取り扱いは始めた、趣味や育児などの約40種類の雑誌も含まれています。

また、地域情報センターから引き続き、8台のパソコン、600タイトルを越す映像DVDの鑑賞ブースを備えることも、閉館時間を20時とするなど、より多くの市民が図書に親しめるよう、図書館機能の充実を図りました。

▼開館時間 10時～20時

▼休館日 毎週月曜日、12月31日～1月5日、毎月最終金曜日、特別整理期間(7月中の7日間)



▲充実した機能を備えたアーニス分館



▲アーニス分館を利用する市民

日本と異なる外国文化に 驚きの声も

国際理解講座

7月24日(木)、市民会館で市の外国語指導助手のマーク・レニーさんを講師に、『国際理解講座』(市主催)を開催しました。

『日本人の知らないオーストラリア』をテーマに行われた講話では、マークさんの出身地であるオーストラリアの人口や気候、文化、食生活についてプレゼンテーションなどで紹介。参加者は「独自のスポーツ文化や食生活など、観光だけではないオーストラリアの魅力を知ることができました。実際にオーストラリアに行ってみたいですね」と話していました。

7 / 24



▲マークさんの話に聞き入る参加者



▲市の将来について市長と意見を交わす参加者(右)

市政について 率直な語り合い

市長室フリータイム

7月25日(金)、登別温泉ふれあいセンターで『市長室フリータイム』(市主催)を開催しました。

この事業は、市民が市長と自由に話し合う機会を広げるため平成元年から実施しています。

今回は、市内経済の活性化や温泉への誘客をテーマに1人が申し込み、旅行客の要望を直接聞き取り、ニーズに合った情報を発信していくことの重要性について意見を交わしました。

7 / 25



▲市長に提言書を提出する市民会議の成田会長（右）、中原副会長（中央）

豊かなみどりを 協働で守る

7/29

登別市景観とみどりの条例（案）提言書提出

7月29日（火）、（仮称）登別市景観・緑化条例検討市民会議のメンバーが市役所を訪れ、同条例案とその解説を、市長に提出しました。

同条例案は平成23年7月から3年間に渡って議論を続けて策定したもので、登別の良好な景観と豊かなみどりを守り育てるために、市・市民・事業者の責務などを定めたものです。

条例の制定に当たっては、提言書の内容を基に市が条例案を作成し、パブリックコメント（意見公募）制度により市民の意見を盛り込む予定です。



▲金魚すくいを楽しむ子どもの様子

にぎわい溢れるフェスティバル で夏の思い出づくり

8/2-3

『第27回登別グリーンピア・サマーフェスティバル』

8月2日（土）・3日（日）の2日間、若草中央公園で『第27回登別グリーンピア・サマーフェスティバル』（同実行委員会主催）が開催されました。

晴天に恵まれ、にぎわいを見せた同フェスティバルでは、金魚すくいなどの露店やカラオケ大会、ダンスなど多彩な催しが行われました。

ステージイベントの輪投げでは、真剣な表情で輪投げをする子どもたちに拍手が送られるなど、子どもから大人まで楽しい夏のひとときを過ごしました。

祭りで食と文化の 魅力を発見

8/9-10

第2回のぼりべつ夏祭り

8月9日（土）・10日（日）の2日間、川上公園で『第2回のぼりべつ夏祭り〜いぶり食と文化の祭典〜』（同実行委員会主催）が行われました。

会場には、登別をはじめ、胆振・日高地方の食の魅力を集めた『いぶりマルシェ』と『nittanマルシェ』など、約50店の露店が並び、市民の人気を集めていました。

また、ステージでは、吹奏楽演奏やダンスなどのほか、初日の夜には、太鼓や登別の郷土芸能と『地獄の谷の鬼花火』の共演が行われ、湯鬼神が手筒花火を打ち上げると、会場に詰めかけた市民から拍手が沸き起こっていました。



▲市民の人気を集めた『いぶりマルシェ』、『nittanマルシェ』